

our [] epilogue

モノゴトには終わりがあがる。

本を読み終える 1日を終える 人生を終える

しかしその終わりは限定的であり

そのモノゴトはカタチを変えながら存在し続ける。

本設計はケンチュウの終わり方とその少し先を提案する。

終わるケンチュウ

愛知県豊橋市に位置する高度成長期初頭に
用水路の真上に建てられた水上ビルが終わりを迎える。

戦後ヤミ市から発展し、現在も多くのモノゴトを孕んでおり
新しく生まれ続けてもいる。

そのような水上ビルが単純に建築寿命を理由に淘汰され河川に戻り
孕んでいたモノゴトも無くなってしまおうのだろうか

終わりを迎える建築に対して、私のケンチュウが建築の継承あるいは遺恨として
存在し、モノゴトを継ぎ続けることで遺志をもったマチを形成する。

